

Street Capturing in Nagoya

Masaki Fujihata×Nagoya University of The Arts
藤幡正樹×名古屋芸術大学



2022年3月11日 金 - 27日 日

11:00 - 19:00 | 会期中、金・土・日・祝のみオープン

会場: アートラボあいち

Street Capturing in Nagoya

Masaki Fujihata×Nagoya University of The Arts

藤幡正樹×名古屋芸術大学

2022年3月11日 金 - 27日 日

11:00 - 19:00 | 会期中、金・土・日・祝のみオープン

会場: アートラボあいち

自分が住む街、街にあるさまざまな事物、
普段意識しないそれらとの関係性について、
イメージとAR(拡張現実)技術を介在させて、
考えてみる。

旅のおもしろさが、未知の対象への意識の覚醒で
あるとすれば、日常は対象への無意識に満ちている
ということである。しかし、目的意識を持って
対象を見つめれば、日常もまた旅人的な視線対象へと
変容する。かつては、カメラを持って街に出るだけで、
街が新鮮に見えたものだが、この感覚さえもが
スマートフォン・カメラによって陵辱されてしまった。

《Street Capturing in Nagoya》は、
対象を「刈り取る (Capture)」ことについて再考する。
街中にあるさまざまな事物を探し出し、選ぶ。
それを手で取り上げてポケットに入れる。
同時に、その行為をカメラで撮影する。
ここまでで2重のCaptureが生まれる。
展示では、その事物を展示し、同時にその切り取り
作業そのものの記録が鑑賞者の視覚によって、
3重にCaptureされることになる。

藤幡正樹 | ふじはたまさき

80年代初頭からコンピュータ・グラフィックスと
アニメーションの制作、その後コンピュータを
使った彫刻の制作を経て、90年代より
インタラクティブな作品を発表。1995年
インタラクティブな本をテーマにした作品
《Beyond Pages》。1996年ネットワークを
テーマにした作品《Global Interior project#2》。
《Field-works》シリーズでは、GPSを用いて
取得された位置データとビデオ映像を3次元の
ヴァーチャル空間で表現する。2012年に
フランスのナント市で《Voices of Aliveness》を
制作。2016年AR(拡張現実)を用いて自身の
作品を集めたアーカイブ本《anarchive °6》を
パリで出版。2018年、45-70年代の香港を
舞台に、ARを用いて過去の人物たちが現在の
空間に重なるARプロジェクト《Be Here》を制作。
1996年、アルス・エレクトロニカ(リンツ/
オーストリア)で日本人初のゴールデン・ニカ賞を
受賞。2010年文化庁「芸術選奨」文部科学
大臣賞を受賞。2016年に内閣府より紫綬褒章を
受章。現在は東京芸術大学名誉教授。2017年
オーストリアのリンツ美術大学、2018年香港
バプティスト大学の客員教授として滞在。2021年
名古屋芸術大学デザイン領域特別客員教授。



主催:
名古屋芸術大学、国際芸術祭「あいち」組織委員会
助成:
一般財団法人地域創造
企画:
名古屋芸術大学 デザイン領域 先端メディア表現コース
問い合わせ:
名古屋芸術大学 西キャンパス 0568-24-0325

新型コロナウイルス感染症の状況により、予定を変更・中止する場合がございます。
最新情報は、大学ウェブサイト (<https://www.nua.ac.jp>) および
アートラボあいちウェブサイト (<https://aichitriennale.jp/ala/>) をご確認ください。



アートラボあいち

〒460-0002
名古屋市中区丸の内三丁目4-13
愛知県庁大津橋分室2階・3階
Tel & Fax: 052-961-6633
E-mail: ala@aichitriennale.jp
<https://aichitriennale.jp/ala/>

交通案内:
・地下鉄名城線「市役所」4番出口から徒歩5分
・地下鉄桜通線・名城線「久屋大通」1番出口から徒歩8分
運営:
国際芸術祭「あいち」組織委員会